

# 事業報告書

## 1 法人の概要

### (1) 基本情報

法人の名称等	学校法人トキワ松学園
	東京都目黒区碑文谷4-17-16
	電話番号 03-3713-8161 (代表)
	FAX番号 03-3793-2562 (事務室)

### (2) 建学の精神

トキワ松学園創立者三角錫子の「長い年限を女学校に行かれないけれども学びたいという人のために建てた学校である。皆が自由に楽しく学べばよい。子どもたちがめいめい持って生まれた天分を伸ばしてあげればよいのだ。今のように、女学校の卒業証書が嫁入り道具のダンスならば、ここ（常磐松）のは小さくともその中にしっかりした鋼鉄に一輪のすみれの花をそえて包んでいってほしい」との教育理念を今日の全人教育に敷衍すべく、「鋼鉄に一輪のすみれの花を添えて」を学園の建学の精神として今も受け継ぎ、「鋼鉄の強さと堇の優しさをあわせ持って、真の自由と自立を身につけ、社会に貢献できる人に育てる」ことを教育の柱に位置付ける。

また、横浜美術大学は前身となるトキワ松学園女子短期大学の創立者である室谷早の教育理念「美術による創造性豊かな人間形成」を建学の精神としている。

### (3) 法人の沿革

- 大正 5.7 創立者三角錫子、東京府豊多摩郡渋谷町に2年制の常磐松女学校を設置。
- 12.4 4年制の常磐松高等女学校となる。
- 昭和 13.4 5年制の常磐松高等女学校となる。
- 20.5 東京空襲により校舎焼失。
- 21.4 学校法人和光学園(世田谷区)に移転。
- 22.3 同学園より独立し、国学院大学の教室を借用し、再建の準備をする。
- 22.4 新制常磐松中学校設置。
- 22.7 財団法人常磐松学園設立。
- 23.2 目黒区碑文谷に校舎竣工。国学院大学より移転。
- 23.4 新制常磐松高等学校設置。
- 26.3 学校法人トキワ松学園設立。
- 26.4 トキワ松学園小学校設置。
- 41.4 トキワ松学園女子短期大学造形美術科設置。
- 62.4 短期大学別科(デザイン専修1年)設置。
- 平成 6.4 短期大学別科(デザイン専修)廃止。
- 7.4 短期大学の校名を「トキワ松学園横浜美術短期大学」に変更。
- 8.4 短期大学に専攻科設置。
- 12.2 目黒校舎建替え工事竣工。
- 13.4 短期大学の校名を「横浜美術短期大学」に変更。男女共学の実施。
- 16.3 短期大学6号館竣工。
- 17.2 短期大学体育館竣工。
- 18.11 学園創立90周年記念式典実施。
- 20.5 目黒体育館・プール竣工。
- 21.6 短期大学新本館竣工。
- 21.10 横浜美術大学設置認可。
- 22.4 横浜美術大学開学。短期大学造形美術科・専攻科 学生募集停止。
- 23.11 小学校創立60周年記念式典実施。
- 24.7 横浜美術短期大学廃止。
- 28.4 大学学科名称を「美術・デザイン学科」に変更。
- 28.11 学園創立100周年記念行事実施。
- 令和 3.11 小学校創立70周年記念。

## (4) 設置する学校、学科、学生数等

単位：人

学 校 名	学科等の名称	開設年度	入学定員	R6年4月 入学者数	収容 定員 A	左の現員 B R6.5.1現在	充 足 率 B/A %
横浜美術大学 (所在地) 横浜市青葉区鴨志田町	美術・デザイン 学科	平成22年度	1年次 192 編入 2	205 1	772	855	110.8
トキワ松学園高等学校 (所在地) 東京都目黒区碑文谷	全日制課程 普通科	昭和23年度	200	145	600	386	64.3
トキワ松学園中学校 (所在地) 東京都目黒区碑文谷		昭和22年度	200	128	600	295	49.2
トキワ松学園小学校 (所在地) 東京都目黒区碑文谷		昭和26年度	40	48	240	285	118.8
合 計			-	527	2,212	1,821	82.3

## (5) 役員・評議員の概要（令和6.5.1現在）

## ① 役員

・理事 定員 8人以上10人以内  
現員 9人

・監事 定員 2人  
現員 2人

理事長：岡本 信明

理 事（常勤）： 加藤 良次、 田村 直宏、 百合岡 依子、 綿引 豊

理 事（非常勤）： 石川 一郎、 田畑 彰久、 前原 小絵子、 島尾 新

監 事（非常勤）： 藤田 紳、 清水 美和子

## ② 評議員

・定員 23人以上25人以内  
現員 25人

岡本 信明	加藤 良次	田村 直宏	百合岡依子	綿引 豊
三橋 純	小野寺玲子	内田 均	播磨 康泰	中里 謙一
中山 正秀	木本 寿	川澄 幸宏	杉山 孝貴	桑野 紀子
森 久美子	清原隆太郎	石川 一郎	金谷三枝子	丸山 宏
井口 敬子	中川 博英	カンティー・ユース	米澤 文彦	青木 貴子

## ○責任免除・責任限定契約、補償契約・役員賠償責任保険契約の内容

## 1. 責任限定契約（対象：非業務執理事、監事）

（契約内容の概要）

非業務執理事及び監事が任務を怠ったことにより生じた損害について本法人に対する賠償の責任は、その職務を行うにあたり善意でかつ重大な過失がないときは、私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とする。

## 2. 役員賠償責任保険への加入

・対 象 者：全役員及び全評議員並びに管理職従業員（理事会決議で選任された者）

・補償内容：法律上の損害賠償金、争訟費用、法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等

## (6) 教職員数 (令和6.5.1日現在)

単位：人

区分	法人事務局			大学			高等学校			中学校			小学校			合計		
	専任	非常勤	計	専任	非常勤	計	専任	非常勤	計	専任	非常勤	計	専任	非常勤	計	専任	非常勤	計
教員	0	0	0	42	160	202	31	11	42	15	9	24	21	2	23	109	182	291
	0	0	0	18	60	78	19	8	27	13	5	18	10	2	12	60	75	135
職員	2	0	2	20	35	55	5	4	9	3	3	6	1	1	2	31	43	74
	0	0	0	12	28	40	4	3	7	2	2	4	1	0	1	19	33	52
計	2	0	2	62	195	257	36	15	51	18	12	30	22	3	25	140	225	365
	0	0	0	30	88	118	23	11	34	15	7	22	11	2	13	79	108	187

※大学専任教員には助手を含む。中高専任職員にはALT（外国語指導助手）を含む。（注）下段は、女性の数で内数

## (7) 理事会・評議員会の開催状況

## ア) 理事会 7回開催

区分	開催年月日	主な審議事項等
定例	令和5年5月23日	・令和4年度決算及び事業報告
定例	令和5年7月4日	審議事項なし ・期末手当支給率 ・学生生徒児童募集活動状況
定例	令和5年10月24日	・小中高学則の一部改正
定例	令和5年11月28日	・学長及び中高校長の選任 ・大学学則の一部改正 ・大学学費納入規程の一部改正 ・小中高奨学生規程の一部改正
定例	令和6年2月27日	・評議員の推薦 ・監事候補者の選出 ・法人事務局長の選任 ・大学学則及び教授会規程の一部改正 ・令和6年度役員報酬役付手当 ・役員賠償責任保険の更新
臨時	令和6年3月26日	・評議員の選任
定例	令和6年3月26日	・令和5年度補正予算 ・令和6年度当初予算及び事業計画 ・理事の選任 ・評議員の選任 ・理事長の選任

## イ) 評議員会 3回開催

区分	開催年月日	主な審議事項等
定例	令和5年5月23日	・令和4年度決算及び事業報告 ・監事選任の同意
定例	令和5年11月28日	審議事項なし ・学生生徒児童募集活動状況 ・学費値上
定例	令和6年3月26日	・令和5年度補正予算 ・令和6年度当初予算及び事業計画 ・理事の選任 ・監事選任の同意 ・評議員の選任

事業計画	実績
<p>I 直近の認証評価（大学基準協会）における改善指摘事項への対応                      認証評価における＜改善指摘事項＞</p> <p>1) 教授会及び「運営委員会」が内部質保証システムについて果たす役割を明確にし、「将来計画・経営戦略委員会」を中心とした内部質保証を有効に機能させるよう、改善が求められる。</p> <p>2) 教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化に係る組織的なFD活動については実施しておらず、改善が求められる。</p> <p>3) 教授会と各種委員会の関係性や意思決定プロセスが、規程上明確になっていない。議事録等も審議過程がわかるよう記述すること。</p> <p>4) 財政基盤の確立に向けて、具体的な数値目標を含む中・長期財政計画を策定・実行することが求められる。</p> <p>II 教育研究活動                      (1) 教育研究の推進                      ・新カリキュラムの導入と円滑な運用</p> <p>・学生のPC必携化（全学年）をスタートし、ICT活用による学びの個別化や協働化を推進</p>	<p>・2024年度より内部質保証システムの推進に責任を負う組織を「将来計画・経営戦略委員会」から「運営協議会」に移行させ、内部質保証システムを再構築し、所要の手続きを改定した。</p> <p>・FD推進として、教員の教育力向上のための授業改善研修会を実施し、教員間でTP（ティーチングポートフォリオ）の作成及び共有を行い、教育力向上のための施策を展開しているものの、教員の研究活動や社会貢献等の諸活動に関するFD活動について、今年度は未実施であり、来年度以降計画的に実施していくこととする。</p> <p>・法令上における学長・教授会・各種委員会の相互の役割・関係性を整理し、学内における意思決定プロセスを明確化し、所要の手続きを改定した。また、議事録等について審議の過程が分かるものとなるよう学長名で通達を発信し、周知徹底した。</p> <p>・2023年度予算より、予算編成の基本方針において学園全体の具体的な黒字額目標数値を表記するよう改善している。中長期的な計画においても具体的財務数値目標を盛り込んでいくこととする。</p> <p>・2023年4月より新カリキュラムを導入し、前期においては、美術・デザイン分野で創造性を養うために必要な基礎実技（共通基礎）を学び、1年次生全員が同じ科目名の授業を履修することとした。後期においては、4つの科目より、主領域と副領域科目を1つずつ選択し、幅広い横断的な実技（選択基礎）を学ぶ事で、2年次より学生が所属するコース選択における分野適性の判断を可能にした。このことから、例年、2年次コース選択の際に受入れが不可能なコースにおいて実施していた抽選対象のコースが1コースのみとなり、各コース受入人数に従った分野適性の判断が円滑に行われたと評価している。</p> <p>・学生のPC必携化に関しては、前年度ソフトウェアの無償インストールを周知したこと、また大学による貸与制度を整備したことにより、円滑な購入が整った。また、通常パソコン室として運営していた教室を、電源を整備した部屋としてリプレイスすることで、パソコン室で実施していた講義を、同じ場所で受講できる環境を整備した。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として対面型授業とし、アクティブラーニングによる教育力強化</li> <li>・学習成果について複数観点からの可視化推進</li> </ul> <p>(2) 教育の質的転換に係る課題への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内部質保証システムの整備</li> <li>・IR機能の強化</li> </ul> <p>(3) 計画的な教育環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生数増等に伴う教室不足への対応:新棟建設準備及び建築費用の積立</li> <li>・既存構築物の撤去と修正</li> <li>・学生のPC必携に伴う環境整備</li> </ul> <p>(4) FD・SD活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の研究活動等を活性化できるようFD活動として取り上げ推進する。</li> <li>・FD・SD研修会を通じて教員の教育力強化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年4月より導入した新カリキュラム科目として「総合美術論」を初年次教育の必修科目として開講し、対面方式のアクティブラーニング型の教育をさらに強化した。</li> <li>・2023年度のディプロマサプリメントの発行件数は、135件(2022年度より+42件)。現在は、成績証明書の発行依頼を希望した4年次生のみとなっているが、在学生向けにプレ・ディプロマ・サプリメントを運用することについては、来年度以降も検討を継続していくこととした。</li> <li>・整備済みの内部質保証システムに基づく運営を実施。ただし、2024年度以降の運営は認証評価指摘事項1)の実績の通り、実施していくものとする。</li> <li>・IR機能の維持</li> <li>・新棟建設準備及び建築費用の積立を継続した。</li> <li>・既存構築物の撤去・修正を含めたキャンパスマスタープランWGを立ち上げ、教育環境施設の整備を計画的に検討していくこととした。</li> <li>・学生PC必携に関し、経済的理由から準備できない学生向けの貸与制度を開始した。</li> <li>・第1回・2回エビペン研修(大学では初)</li> <li>・NFTアート講習会(大学では初)</li> <li>・救命講習会(AED)</li> <li>・第1回 情報交換会「2023年度以降入学生新カリキュラムの前期専門科目担当教員報告」</li> <li>・第2回 情報交換会「2023年度以降入学生新カリキュラムの後期専門科目担当教員報告」</li> <li>・ハラスメント防止研修会</li> <li>・生成AIに関する検討について(大学では初)</li> <li>・PC必携の前期終了時振り返りについて</li> <li>・トキワ松学園の合同研修会(SD研修会)</li> <li>・合理的配慮に係る研修会(実践編)</li> <li>・教員の教育力向上のための授業改善研修会</li> </ul> <p>※特に2024年4月より義務化される合理的配慮に関する実践的な研修会を実施したことにより、教職員間における、本学が提供することができる合理的配慮に関する事項を再確認することができた。</p>
<p>IV 学生支援活動</p> <p>(1) 学生支援活動の積極的展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生支援、修学支援の強化充実</li> <li>・創作活動支援の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートパソコン必携となったことから、前年度に引き続きwebポータルを整備を行った。課外活動のための書類や奨学金などの情報についても随時閲覧ダウンロード</li> </ul>

- ・就職、キャリア支援の強化充実
- ・企業との連携推進

## V 学生募集計画

### (1) 令和6年度入学者目標

216人

### (2) 入試広報の充実及び適切な入試の実施

- ・大学ホームページの全面リニューアル
- ・SNS連携を強化し、広報活動の更なる充実
- ・入試の適切な実施継続

## VI 地域・社会活動

### (1) 地域連携・社会貢献の推進

- ・地域連携センターによる公開講座の充実
- ・地域コミュニティ（企業、自治体等）との連携事業の推進

ードできるように改修した。

・学生の創作活動支援として、出品発表支援制度があり、2023年度は76名にのぼる多数の利用者があった。また、さらなる支援充実のために日本国内の支援のほかに海外の支援も追加することを決定し2024年度より運用を開始する。

・23年度は、内定者数・就職希望者数・全卒業者数比就職率・全就職希望者数比就職率、共に過去最多となり、新しい計算方法の就職率でも88.6%と、高い数値となった。4種のキャリアデザイン授業履修人数大幅増員への促し行動や、3年次全員面談の前倒し等、ここ複数年のキャリア支援施策の影響が大きいと評価している。既存施策の改善で精度向上を目指しつつ、次年度新たに導入した（実施予定含む）施策で安定化に取り組む。また、この実績を持って、就職率向上施策は一定の目標を達成したと判断し、今後は創作活動・進学支援施策に注力していく。

・就職活動年次である3年次履修対象のキャリアデザインⅢ授業内に多種多様な企業を招聘し登壇を実現することで、学内で学生が業界・企業研究を実現する機会を提供できた。また、4年次対象には、本学学生に対する採用意欲の高い企業による企業説明・選考会を実現することで、より直接的な企業と学生の接点を創出した。

・入学試験開始前、最終的には入学者目標数を216名としたが、令和6年度（2024年度）入学者は205名となった。

・2023年4月より大学ホームページの全面的なリニューアルを実施した。

・Line進学相談会、高校教員向け大学説明のYouTube配信、X（旧Twitter）による大学広報活動の実施などSNSを積極的に活用し、広報活動を展開した。

・円滑かつ適切に各種入試を実施した。

・教員対象の入試説明会、助手副手職員対象のメールによる入試説明をおこない、文部科学省からの通知、入試大綱、募集要項に則り、公平、明快に入学試験を行うよう努めている。

・コロナ感染症の5類移行に伴い、2023年度の生涯学習公開講座については講座数を絞り込まず開催した。2024年3月には講座受講者の作品展を実施した。

・企業・自治体等との連携事業は以下の通り

- 三越伊勢丹横浜店、大船店における作品展示
- 雪印こどもの国牧場でフェルトを使用したワークショップを開催

<p>・青葉区との連携事業の推進</p> <p>・青葉区と青葉6大学との連携・協力に関する協定に基づく事業の推進</p> <p>VII その他</p> <p>(1) 認証評価の受審結果を踏まえた改善対応</p> <p>・教授会及び関連の委員会との役割を整理し、規定の整備を行う。</p> <p>・中期的な計画に財務基盤の確立に向けた具体目標を設定し、24年度計画に反映させる。</p> <p>(2) 改革総合支援事業の促進や内部質保証体制の充実</p> <p>(3) 学生、教職員の学外及び学内における企画展の開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 青葉台東急スクエア 23周年アニバーサリーポスターデザイン制作</li> <li>● 横浜市立金沢動物園「ナイト金沢 ZOO 竹灯籠制作」</li> <li>● 牛乳石鹸「赤箱 AWA-YA」学生作品制作・展示</li> <li>● 東急たまプラーザテラス「FIND LOCAL FES メインビジュアル制作」</li> <li>● 相模大野アートクラフト市展示・参加</li> <li>● 榊ミツウロコ ハマボールイベント ボウリングピン展示</li> <li>● 矢上小学校50周年記念プロジェクションマッピング&amp;ワークショップ開催</li> <li>● 東急たまプラーザテラス共用部活用プロジェクト作品展示</li> <li>● 三菱ケミカル(株)Science &amp; Innovation Center エントランス作品展示</li> </ul> <p>・青葉区との連携事業は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 青葉区政 30 周年ロゴマーク制作（青葉区区政推進課）</li> <li>● 夏祭り用のうちわのデザイン制作（青葉区地域振興課）</li> <li>● 絵本の貸出「くるくる絵本サーカス」の実施（青葉区こども家庭支援課）</li> <li>● あおば美術公募展、審査（青葉区地域振興課）</li> <li>● 青葉区長室等の作品展示（青葉区総務課）</li> <li>● 青葉消防署主催の火災予防ポスター審査</li> <li>● 交通安全看板イラスト制作（青葉交通安全協会）</li> </ul> <p>・青葉区と青葉6大学との事業推進は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 青葉6大学連携特別講座を開催（青葉区区政推進課）</li> </ul> <p>・法令上における学長・教授会・各種委員会の相互の役割・関係性を整理し、学内における意思決定プロセスを明確化し、所要の規程を改定、整備した。</p> <p>・中長期的な計画策定に関し、具体的な財務数値目標を設定していくこととする。</p> <p>・改革総合支援事業に関しては、文部科学省が実施するタイプ I 『『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開』の選定を企図し教育の改革を推進していくこととする。また、内部質保証については 2024 年度から新たな枠組みで体制構築・推進していくこととする。</p> <p>・助手副手発表支援制度に基づき、助手・副手が各自で個展を開催した。また、「助手副手展」（横浜市民ギャラリー）を開催した。</p>
---	--

事業計画	実績
<p>I 教育研究活動</p> <p>(1) 「探究女子」育成の為の授業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年高等学校学習指導要領改訂に伴い、「総合的探究の時間」を使った独自プログラム「探究」がスタートした。</li> <li>・高1では全クラスで「企業探究学習」を実施し、探究の手法を学ぶ。</li> <li>・文理探究コースでは更に、各自の個人探究のテーマを探す為の活動を行う。</li> <li>・美術デザインコースでは深く美術を理解する為の美術概論を学ぶ。</li> <li>・高2では各自のテーマを探究する「個人探究」を実施し、外部のコンテストへの参加、小論文の作成を通じて「探究女子」へと成長してもらう。</li> <li>・授業時間は、高1で2時間、高2で3時間。</li> <li>・大学入試を総合型選抜・学校推薦型選抜（自己推薦）で受験する生徒は、「探究」の授業で身に着けた力を生かして受験する事で、進学実績の向上にもつなげる。</li> </ul> <p>(2) 国際力教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの海外研修制度、イギリス多文化研修、オーストラリアターム留学、アメリカアート研修を継続する。</li> <li>・ターム留学は2022年度から再開しており、2023年度からは全ての海外研修を再開させる予定。世界の情勢不安、円安、物価高と海外研修への逆風が吹いているが、その中で研修を再開することはトキワ松の国際力教育を世間にアピールする絶好の機会であると考えます。</li> <li>・ALT(外国語指導助手)の活用継続(中学1名、高校1名) *コロナの影響で2021年度はALT1名で対応していたが、2022年度より2名体制に戻り、ネイティブによる授業が充実している為、これを継続する。</li> <li>・English Day、Winter challenge等、各学年で実施している英語系行事を継続する。</li> </ul> <p>(3) 学力及び進学力向上に向けた方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の学力向上の為に、英語外部検定試験の受験促進を引き続き行っていく。</li> <li>・現在でも英検等で高い資格取得実績を誇るが、更なる実績向上に向けてICT教材の導入、受験機会の提供を進める。</li> <li>・今年度中学入試において英検取得者への優遇措置を広げたが、英語外部検定への意識の高い入学生を集めていく。</li> <li>・全教科の授業においてICT教育を充実させ、生徒の個々の能力の良い所を伸ばす教育を実施する。具体的には、課題の個別最適化とグループ活動により、生きた学力を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校1年生の「探究」では、クエストカップ(全国大会)に2年連続で2チームが進出し、うち1チーム「吉野家」部門で企業賞(全国1位)を獲得した。校内発表会等、「探究女子」を育成する活動を多く実施する事ができた。</li> <li>・高校2年生の「探究」では、4つのゼミに分かれ個人のテーマでそれぞれの探究活動を行った。各種の探究コンテスト、美術系のコンテストで多数の入賞者があった。また、カネリョウ海藻株式会社から新製品のパッケージデザインがトキワ松に依頼され、今夏その商品が全国販売される予定である。また、その取り組みはテレビ番組で取り上げられた。</li> <li>・低学年時から学校内外で積極的に探究活動を行った生徒が、総合型選抜入試で成蹊大学に合格した。また、別の生徒は学校推薦型選抜の自己推薦型で東京農工大に合格する等、探究が進学実績の向上に確実につながることが示された。</li> <li>・アメリカアート研修は、準備が間に合わず今年度も実施できなかったが、イギリス多文化研修は4年振りに実施することができた。</li> <li>・2023年度も通年でALT2名体制を取ることができた。ネイティブ2名と日本人教員1名の計3名によるティームティーチングはトキワ松学園中高の英語教育の売りであり、継続していく。</li> <li>・英語系行事は、コロナ禍に海外研修代替行事としてじっしたものを定期行事に加えるなど、更に充実させている。</li> <li>・中3の英検3級取得率68.8%、高3の英検準2級取得率58.8%は、文科省の目標50%を上回り、英語外部検定に関して実績が出ている。</li> <li>・アクティブラーニング型授業は、「思考と表現」、「探究」を中心に、他の授業でも中高共に工夫された形で取り入れられている。</li> <li>・atama+、スタディーサプリ、English4skills等、ICT教育により個別最適な学びを、生徒達が自ら</li> </ul>

<p>全ての生徒が身に付けられる授業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トキゼミ（AI アプリ atama+による英語と数学の強化）を更に充実させて行く。</li> <li>・学習オンラインサービス「スタディーサプリ」を高校 1, 2 年、中学 3 年全員と、その他の学年の希望者対象に導入する。</li> <li>・学年全員を対象にすることで、担任、授業担当者が生徒個々のデータを把握し、分析がしやすくなる為、生徒全員の学力向上に向けて昨年度以上に活用していく。</li> </ul> <p>（４）ICT 環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Surface Go を全校生徒が持つ状態が 2 年目に入る（Wi-Fi 回線は令和 4 年度に増強し環境も充実）。</li> <li>・生徒、教員共に機器の扱いにも慣れてきており、現場の声を聞いてさらに ICT 環境を整えて行きたい。</li> <li>・また、生徒の学習活動記録のデジタル化、教員の授業・生徒指導・生徒の学習支援のためのアプリが複数存在し、逆に使いづらい状況があるので、教員がより快適で、かつ、ペーパーレスが実現するシステムを構築し、使いやすい環境を整える。</li> </ul> <p>（５）小中高連携強化の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中高教員の小学校授業担当を継続・推進する（体育科 6 時間（2 時間増）・社会科 4 時間・音楽科 4 時間）。</li> <li>・将来的には、令和 6 年度にむけて教科を再検討する。</li> <li>・トキ小生の中高部活体験入部及び継続参加を再開する。</li> </ul> <p>（６）高大連携強化の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜美大教員による中高授業担当派遣の継続</li> <li>・デッサン自習室の講師派遣再開</li> <li>・トキ美（中学生向け放課後美術講座）への講師派遣の継続</li> <li>・「ときC a f e」及び廊下のギャラリー継続</li> </ul> <p>Ⅲ 生徒支援活動</p> <p>（１）探究活動への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部人材、探究コンテストの紹介或いは自分で探す方法の提示で、生徒が主体的に自らの探究活動を行えるような支援を行う。</li> <li>・教員がファシリテーターとして生徒の支援を行えるように、教員のスキルアップを図る。</li> </ul> <p>（２）海外研修プログラムの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3 つの海外研修制度、イギリス多文化研修、オーストラリアターム留学、アメリカアート研修を継続する。</li> <li>・ターム留学は 2022 年度から再開しており、2023 年度からは全ての海外研修を再開させる計画。</li> </ul> <p>（３）Surface Go の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 4 年度より、授業アンケートを Surface Go を使っ</li> </ul>	<p>できる環境が整っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通信環境の安定のために、学校 Wi-Fi の増強を更に進めている。</li> <li>・Classi は学習、生徒・保護者との連絡、探究の為のアンケート調査、成績分析等、広範囲で効果的に使われている。</li> <li>・生徒会選挙の投票をタブレットで実施するなど、授業以外での活用も増えている。</li> <li>・中高教員による小学校授業担当を継続した。</li> <li>・中高部活体験を再開し、中学生によるトキ小生への「本の読み聞かせ」を継続している。</li> <li>・横浜美術大学への特別推薦制度により 8 名が進学（うち後期 3 名）した。</li> <li>・横浜美大の教員による、高校出張講座と中学トキ美を実施した。</li> <li>・横浜美術卒業制作ギャラリーは例年通り素晴らしかったが、トキワ松学園高校出身者が制作した“B a r e” の評判が特に高かった。</li> <li>・高校 1 年生の最初の探究の授業に、元文部科学副大臣鈴木寛先生を招いて講演する等、外部人材を積極的に登用した。</li> <li>・学年末に、探究を担当した教員による研修会を学校全体で開催し、教員間の情報共有を行った。</li> <li>・イギリス多文化研修には、中 3～高 2 の計 24 名が参加。報告会では、次年度参加者希望者に身に付けた英語力を披露した。</li> <li>・オーストラリアターム留学には、高校 1, 2 年生の計 3 名が参加した。</li> <li>・全校生徒がタブレット型 PC を持つ状況が 2 年目に</li> </ul>
--	--

て実施している。プリント配付、アンケート等を、紙媒体よりも素早く便利に活用し、生徒が自分の時間を有効活用できるように更に改善を進める。

- ・令和5年度からはタブレットペンも導入することで、美術を中心に授業内でより一層活用を進める。

#### (4) 自習室ならびにデッサン自習室の拡大と使用時間の延長

- ・新型コロナウイルスの影響で閉鎖、或いは利用時間を短縮していた自習室とアトリエを、19時まで時間延長する。
- ・令和4年度より広い部屋に移転しており、収容人数も増やした。更に有効活用してもらうように、利用環境を整えていく。

#### (5) トキ美（中学生向け放課後美術講座）の継続と充実

- ・トキ美を開始して3年目に入るが、毎年抽選に漏れて参加できない生徒がいるほどの人気講座となっている。更に良い者にしつつ、参加人数枠も検討していく。

### IV 生徒募集計画

#### (1) 令和6年度入学者目標

中学1年100名

高校一年160名（内進生79人、高入生81人）

#### (2) 効果的な広報活動の実施

- ・トキ小生内部進学のために、全学年の懇談会にて中高校長がアピールをさせてもらう。
- ・特に、優秀な生徒にも入学してもらう為に、特待生の情報を発信していく。
- ・塾・中学回り担当を部長・学年主任にも広げる事で、先生方がトキワ松の良い所と外部からの評価を認識できるようにする。また、訪問先を厳選し、コストパフォーマンスの高い活動に変える。
- ・HP及び学校案内は現在、見た目の美しさと更新頻度の多さで、評判はとても良い。更に情報にアクセスしやすい形に整理することと、各教科・部活ならびに校長ブログの定期的かつ頻繁な更新を行う。

#### (3) 文理探究コースの強化

- ・高校入学生募集で、美術デザインコースの希望者は増加している。生徒数が増えるのは有難いが、設備面で考えると美術デザインコースは2クラスで押さえたい実情がある。
- ・今後、高校の生徒数130人以上、クラス数5クラス以上を目指す場合、文理探究コースの志望者数を増やす必要がある。高校募集での文理探究コースのアピールを強化して行く。
- ・また、中入生が高校に進学する際に文理探究コースに目

なり、授業での使用頻度が更に高くなっている。トキワ松学園中高で実施した一般の先生向けのロイノート研修会に本校教員も参加するなど、教員の意欲も高くなっている。

- ・自習室、デッサン自習室は、閉館時間まで利用する受験生が多く居た。

- ・今年度も抽選に漏れて泣き出す生徒がいた。後期は参加人数枠を広げ、少しでも多く希望者が受講できるように工夫した。

#### ・令和6年度入学者数

中学校128名、高等学校145名（内進生67高入生78）。中高の合計数で目標を超える事ができた。

- ・トキ小保護者対象の説明会を実施し、更に各学年の保護者懇談で中高校長による学校紹介を実施した。

- ・塾・中学周り担当を部長・学年主任に広げた事で、先生方の募集広報への意識が高まり、日頃の教育活動の中で生徒募集を意識してもらえるようになった。

- ・入試においては英検優遇制度を一部変更し、優遇の割合を減らしたが出願への影響はなかった。

- ・HPの更新はトキログを中心にほぼ毎日行っており、学校の情報を発信することができている。

- ・3年連続で美術デザインコースに70名以上の入学生があった。2年次から文理探究コースに転コースする生徒もいる為、高校全体の募集において美術デザインコースは入口としての魅力になっている。

- ・文理探究コースの出願者は減少したが、推薦入試の出願者は増加した。今後は推薦入試の出願者数を更に増やしたい。

<p>が向く中学での指導も行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・また、中学の生徒数が目標の90人を超え続ける事が、最も文理探究コースの強化になる為、中学入学生募集の強化も継続して行う。</li> <li>・「文理融合」が文理探究コースの一番の売りであるため、それが伝わるコース名の変更も早急に実施したい。</li> </ul> <p>(4) 令和5年度 生徒募集事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受験生・保護者対象校内説明会</li> <li>・受験生・保護者対象外部相談会</li> <li>・ミニ見学会（夏の見学会含む）</li> <li>・トキワ祭来場者</li> <li>・個別塾生対象オンライン説明会</li> <li>・公立中学校訪問</li> <li>・塾訪問</li> <li>・塾・中学への学校案内等の配布</li> <li>・来校者への礼状・案内送付</li> </ul> <p>V 地域・社会活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在も行っているボランティア活動を継続すると共に、更に推進していく</li> </ul> <p>※現在行っているボランティア</p> <p>目黒区社会福祉協議会のボランティア、スペシャルオリンピックス（ユニファイト参加）、リバーサイドフェスティバル参加（目黒区商工会主催）、碑文谷町会お祭り参加、目黒中央体育館「館まつり」等</p> <p>※令和5年度より行うボランティア</p> <p>目黒区文化展の案内ハガキのデザイン</p> <p>VI その他</p> <p>(1) 学内施設の外部貸し出しによる施設利用収入の増加に向けての方策・課題4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月10日、11日に、教育フェスティバルの為に校舎全体の貸し出しを計画中</li> <li>・目黒区のシニアの為に勉強会の会場として、平日夕方以降と日曜休日に教室を使ってもらう</li> <li>・「不登校生徒の為にドローン教室」を、生徒が企画（上記計画は、実現可能性が高い物も低い物もある。共通しての課題は、トキワ松としての施設利用料金体系は存在するが100%の料金では実現が不可能になる為、割引が必要になる事）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学入学生が128名と目標を大きく超えた事により、3年後の文理探究コースの人数が増えることが見込まれる。高入生の募集も大切だが、中入生の人数を維持、増加させていく。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒募集事業に関しては、ほぼ計画通り行うことができた。</li> <li>・部活体験も復活でき、また来場者の案内を協力生徒にもしてもらっている為、来場者の満足度が高くなっている。</li> <li>・公立中学校訪問は、資料を送った後の電話による確認連絡に変更した。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・左記のボランティアに、継続して参加した。</li> <li>・目黒区社会福祉協議会主催のボランティア「夏ボラ」には82名が参加した。これは目黒区全参加者145名の半数以上を占めていた。</li> <li>・上記の学校紹介によるボランティアだけでなく、その他の活動に多くの生徒が取り組んだ。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内施設の外部貸し出しを、積極的に行った。 6/18 3階ホール 映画自主上映会 8/10, 11 体育館 教育イベント「Taboo」 1/14 体育館 小学生の為にドローン教室 ロイロノート研修会を学期に1度ずつ 等</li> <li>・施設利用料収入だけではなく、トキワ松学園に一度足を運んだことがある、イベントのチラシでトキワ松学園の名前を見たことがある等、トキワ松を知ってもらうきっかけになると考えている。</li> </ul>
---	--

トキワ松学園小学校

事業計画	実績
<p>I 教育研究活動</p> <p>(1) 校教育目標に立ち返った教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活、学習、行事などあらゆる教育活動の場面において「健康 感謝 親切 努力」の四つの目標を意識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度目標の設定および講話（学期ごと）</li> <li>・全校朝礼講話（全校／複数回）</li> </ul>

<p>し、円満な人格形成（知・徳・体のバランス）を目指す。</p> <p>(2) ICT教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援員を配置して3年目になるにあたって、iPadの授業での活用の幅を広げていく。</li> </ul> <p>(3) コロナ禍においてもリスクを低減しながらの行事を含めた教育活動の実施の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度にほぼ元の形に戻した行事、校外学習等をさらに進めていく。</li> <li>机の上の学習と机の上以外の学習の両立を図る。</li> </ul> <p>(4) 英語教育の継続及び発展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度実施の校内英語留学や校外英語体験学習を継続し、英語教育活動の幅を広げて充実させる。</li> </ul> <p>(5) 俳句活動の発展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今まで以上に国語科が俳句教育の継続を進め、俳句コンクールのみならず、小学生新聞などへの積極的な投句を通して、俳句を活用した知性と感性を結ぶ表現教育の発展を目指す。</li> </ul> <p>III 児童支援活動</p> <p>(1) 外部に向けて発表するための場の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>俳句のみならず、作文や社会、理科、図工などにおいて、ひとり一人の持っている力を発表する場を広げていく。</li> </ul> <p>(2) オンラインを含めた保護者特別授業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学びに向かう姿勢や社会と関わろうとする姿勢及び子どもたちの夢を育てるために、各学年とも年に2、3回の特別授業を年度初めの授業計画に組み込む。</li> </ul> <p>IV 児童募集計画</p> <p>(1) 令和6年度入学目標</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">46～48人</div> <p>(2) 新校長に代わっての初年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>在校生の保護者や受験希望者の保護者に対して、今までの方針を維持していくことにより安心していただくと共に、在校生保護者向けの懇談会や外部向けの保護者や幼稚園、幼児教室向けの説明会等を通して新体制への期待感を醸成する。</li> </ul> <p>(3) 女子志願者増のために女子の進学受験体制の変更周知を徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校案内、説明会、学校見学等を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校の歴史」校長特別授業（各学年）</li> <li>支援員による授業サポート（プレゼン資料作成・動画作成等）、操作・メンテナンスサポート（児童・教員）</li> <li>ICT委員会による情報モラルカリキュラム作成</li> <li>授業・行事とも従来通りの形に戻して実施</li> <li>校内英語体験実施（7/26～28の3日間） ※1～6年生40名参加、夏休みに関する単語学習、英語劇づくり</li> <li>ロイロノートの投句箱を継続活用</li> <li>発表機会として、学校通信「トキワだより」に俳句コーナーを作る。</li> <li>朝日小学生新聞俳句コーナーに複数回掲載</li> <li>「お〜いお茶」俳句コンクール入選</li> <li>全校集会における個人発表（年間/6年生）</li> <li>自由研究発表（9月/各学年）</li> <li>学習発表会（2～3月/各学年）</li> <li>私学作品展「ほら、できたよ」出展（2月/全校）</li> <li>複数学年で実施 （内容：「すてきな話し合いのやり方」、「馬頭琴のお話とコンサート」、「フェンシング講座・体験」「がん体験から考える〈生きる〉」「お医者さんのお仕事」等</li> </ul> <p>●令和6年度入学者</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">48名（男子23名、女子25名）</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校だより「トキワだより」発行（年間）</li> <li>幼児教室対象説明会を4月に実施（通常1月）</li> <li>幼稚園回り（6月～7月）</li> <li>幼児教室主催セミナー、懇親会参加（1～2月）</li> <li>説明会、個別相談会などで周知 →令和6年度女子入学者は20名を超え男子を上回る</li> <li>学校説明会で中高パンフレットを設置、トキワ中高へ</li> </ul>
--	---

<p>(4) コロナ対応下においても対面の説明会や相談会、学校見学などを重視</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインによる広報活動は原則行わない。</li> </ul> <p>(5) 説明会の重視</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教室依頼の校外ミニ説明会や本校を会場とした模擬テストにおける校内説明会を大事にする。</li> </ul> <p>V 地域・社会活動</p> <p>(1) SDG s 運動を意識した取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間行事、クラス会や学年活動、児童会活動、各教科などを活用する。</li> </ul> <p>VI その他</p> <p>(1) 令和5年度より新しくなるホームページの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達のいろいろな作品を発表するギャラリーのボタンを充実させて、子ども達の活動を外部に発信して、募集活動にも確実につなげていく。</li> </ul> <p>(2) 現指導要領の実践研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インプット（理解）とアウトプット（表現）をバランスよく行う教育活動を実践する。</li> <li>・主体的かつ協働的な活動を実践する。</li> </ul>	<p>の関心も併せて高める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校説明会（5月、6月、9月）</li> <li>・学校見学（2月～9月）</li> <li>・公開授業、公開行事（バザー、運動会、音楽発表会）</li> <li>・入試体験（7月）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教室・外部団体主催説明会にて説明会実施（4月、5月、7月2回、2月2回）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDG s（環境等）にまつわる朝礼講話、各学年での取り組み 例：海洋ゴミ問題・フェアトレード（3年）、どんぐり貯金（1年）他</li> <li>・募金活動（能登半島地震、ユニセフ募金）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図工科による「トキワ松ギャラリー」</li> <li>・各行事担当による「トキワ松だより」</li> <li>・校長ブログ …等随時更新</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習・グループ発表学習（総合の時間、学習発表会、宿泊事前事後学習など）</li> <li>・劇遊び特別授業（全学年）、親子参加公開ワークショップの実施</li> </ul>
---	---

### 3. 財務の概要（経年比較）

#### （1）貸借対照表

（単位：千円）

	R元年度末	R2年度末	R3年度末	R4年度末	R5年度末
固定資産	7,292,790	7,219,913	7,240,734	7,270,362	7,245,052
流動資産	1,496,572	1,836,278	2,005,007	2,102,853	2,203,727
資産の部合計	8,789,362	9,056,191	9,245,741	9,373,215	9,448,780
固定負債	749,176	684,379	654,236	614,889	580,507
流動負債	830,305	924,430	875,957	931,928	930,268
負債の部合計	1,579,482	1,608,810	1,530,194	1,546,817	1,510,776
基本金	11,388,745	11,528,867	11,678,429	11,755,232	11,839,319
繰越収支差額	▲ 4,178,864	▲ 4,081,486	▲ 3,962,882	▲ 3,928,834	▲ 3,901,315
純資産の部合計	7,209,880	7,447,381	7,715,547	7,826,398	7,938,004
負債及び純資産の部合計	8,789,362	9,056,191	9,245,741	9,373,215	9,448,780

#### （2）資金収支計算書

（単位：千円）

収入の部	R元年度末	R2年度末	R3年度末	R4年度末	R5年度末
学生生徒等納付金収入	1,666,677	1,775,934	1,853,034	1,812,203	1,881,024
手数料収入	26,912	29,127	24,991	27,755	27,550
寄付金収入	80,146	79,582	83,898	19,613	26,152
補助金収入	582,297	578,507	609,332	655,008	614,112
資産売却収入	0	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	10,819	231	2,175	7,158	11,013
受取利息・配当金収入	574	784	869	1,060	2,803
雑収入	86,890	97,209	33,269	53,981	54,860
借入金等収入	600	400	400	400	200
前受金収入	525,991	531,122	512,283	535,653	560,022
その他の収入	100,862	216,659	126,873	35,150	53,452
資金収入調整勘定	▲ 584,116	▲ 632,772	▲ 569,668	▲ 570,951	▲ 605,868
前年度繰越支払資金	1,378,990	1,421,816	1,738,060	1,968,542	2,048,076
収入の部合計	3,876,646	4,098,603	4,415,519	4,545,575	4,673,402

支出の部	R元年度末	R2年度末	R3年度末	R4年度末	R5年度末
人件費支出	1,598,469	1,536,836	1,483,418	1,578,184	1,598,740
教育研究経費支出	415,774	416,253	478,489	485,897	514,539
管理経費支出	161,574	131,235	111,093	142,124	126,590
借入金等利息支出	5,612	5,110	4,607	4,105	3,603
借入金等返済支出	41,410	40,610	41,010	40,810	40,610
施設関係支出	111,129	65,473	82,247	36,174	33,492
設備関係支出	57,203	57,903	49,865	94,616	55,722
資産運用支出	30,000	151,180	130,000	145,000	132,000
その他の支出	204,432	175,526	236,820	199,192	263,062
資金支出調整勘定	▲ 170,777	▲ 219,586	▲ 170,573	▲ 228,607	▲ 233,285
翌年度繰越支払資金	1,421,816	1,738,060	1,968,542	2,048,076	2,138,326
支出の部合計	3,876,646	4,098,603	4,415,519	4,545,575	4,673,402

## (3) 事業活動収支計算書

単位：千円

区 分		R元年度末	R2年度末	R3年度末	R4年度末	R5年度末	
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	1,666,677	1,775,934	1,853,034	1,812,203	1,881,024
		手数料	26,912	29,127	24,991	27,755	27,550
		寄付金	74,260	78,582	79,541	19,613	26,152
		経常費等補助金	566,713	574,440	607,128	649,174	614,112
		付随事業収入	10,819	231	2,175	7,158	11,013
		雑収入	25,418	29,637	8,730	14,471	33,084
		教育活動収入計	2,370,803	2,487,953	2,575,601	2,530,376	2,592,938
	支出の部	人件費	1,533,939	1,459,809	1,475,587	1,545,402	1,584,158
		教育研究経費	626,827	633,898	706,720	717,078	745,362
		管理経費	168,541	139,516	119,457	150,761	136,946
		徴収不能額等	10,783	16,410	6,387	6,632	8,077
		教育活動支出計	2,340,092	2,249,635	2,308,153	2,419,874	2,474,544
	教育活動収支差額		30,711	238,318	267,448	110,502	118,394
	教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	574	635	706	897
その他の教育活動外収入			0	0	0	0	0
教育活動外収入計			574	635	706	897	2,640
支出の部		借入金等利息	5,612	5,110	4,607	4,105	3,603
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	5,612	5,110	4,607	4,105	3,603
教育活動外収支差額		▲ 5,037	▲ 4,474	▲ 3,901	▲ 3,207	▲ 962	
経常収支差額		25,673	233,843	263,547	107,294	117,431	
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	22,584	6,343	7,542	12,460	1,456
		特別収入計	22,584	6,343	7,542	12,460	1,456
	支出の部	資産処分差額	37,025	2,686	2,924	8,643	7,281
		その他の特別支出	0	0	0	260	0
		特別支出計	37,025	2,686	2,924	8,903	7,281
特別収支差額		▲ 14,441	3,657	4,618	3,556	▲ 5,825	
基本金組入前当年度収支差額		11,232	237,500	268,166	110,850	111,606	
基本金組入額合計		▲ 78,532	▲ 140,122	▲ 149,561	▲ 76,803	▲ 84,087	
当年度収支差額		▲ 67,299	97,378	118,604	34,047	27,519	
前年度繰越収支差額		▲ 4,111,565	▲ 4,178,864	▲ 4,081,486	▲ 3,962,882	▲ 3,928,834	
基本金取崩額		0	0	0	0	0	
翌年度繰越収支差額		▲ 4,178,864	▲ 4,081,486	▲ 3,962,882	▲ 3,928,834	▲ 3,901,315	
(参考)							
事業活動収入計		2,393,962	2,494,932	2,583,851	2,543,734	2,597,035	
事業活動支出計		2,382,730	2,257,431	2,315,685	2,432,883	2,485,429	

## (4) 主な財務比率比較

(%)

比率名	算式	評価	R元年度末	R2年度末	R3年度末	R4年度末	R5年度末
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	△	36.1	40.2	52.1	71.5	78.0
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	△	180.2	198.6	228.9	225.6	236.9
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼	18.0	17.8	16.6	16.5	16.0
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	～	272.2	270.3	327.2	384.3	382.4
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	～	95.7	96.6	96.9	96.7	97.0
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	△	33.1	33.7	38.9	43.9	46.6
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	▼	64.7	58.7	57.3	61.1	61.0
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	△	26.4	25.5	27.4	28.3	28.7
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	▼	7.1	5.6	4.6	6.0	5.3
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	～	70.3	71.4	71.9	71.6	72.5
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	△	1.1	9.4	10.2	4.2	4.5
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入計}}$	△	0.5	9.5	10.4	4.4	4.3
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{負債}+\text{純資産}}$	△	82.0	82.2	83.4	83.5	84.0

(備考) 評価: △高い値が良い ▼低い値が良い ～どちらともいえない

- ・「経常収入」＝教育活動収入計＋教育活動外収入計
- ・「運用資産」＝現金預金＋特定資産＋有価証券
- ・「要積立額」＝減価償却累計額＋退職給与引当金＋2・3号基本金

(財務比率の意味)

「運用資産余裕比率」：学校法人の1年間の経常的な支出に対しどの程度の運用資産を蓄積しているかを示す。  
この比率が高いほど運用資産の蓄積が良好といえる。

「流動比率」：流動負債に対する流動資産の割合を示す。短期的な資金繰りに支障がないかをみるため、高い値ほど良い。この値が100%を切ると短期の資金繰りに窮している可能性がある。

「総負債比率」：負債総額の総資産に対する割合を示す。この比率は低いほど望ましく、50%を超えると負債総額が純資産を上回ることを示し、100%を超えると、いわゆる債務超過であることを示す。

「前受金保有率」：前受金と現預金の割合を示す。翌年度分の授業料等が現預金として適切に保有されているかを測る比率であり、100%を超えることが一般的とされる。

「基本金比率」：基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済基本金の割合を示す。この比率は100%が上限であり、100%に近いほど未組入額が少ないことを示す。

「積立率」： $\text{運用資産} = \text{現金預金} + \text{特定資産} + \text{有価証券}$ 、 $\text{要積立額} = \text{減価償却累計額} + \text{退職給与引当金} + 2 \cdot 3 \text{号基本金}$ 。  
学校法人の経営を持続的かつ安定的に継続するために必要な運用資産の保有状況を表す。

「人件費比率」：人件費の経常収入に占める割合を示す。人件費は学校における最大の支出要素であり、この比率が適正水準を超えると収支悪化に繋がる要因となる。

「教育研究経費比率」：教育研究経費の経常収入に占める割合を示す。教育研究活動の維持・充実のため不可欠なものであり、この比率は収支均衡を失しない範囲で高くなることが望ましい。

「管理経費比率」：経常収入に対する管理経費の占める割合を示す。管理経費は教育研究活動以外の目的で支出される経費であり、学校法人運営のためにやむを得ないものの、比率としては低い方が望ましい。

「学生生徒等納付金比率」：学生生徒等納付金の経常収入に占める割合を示す。学校における最大の収入要素であり、この比率が安定的に推移することが望ましい。

「経常収支差額比率」：経常的な収支バランスを示す。学校の経常的な活動（教育活動と主に財務活動）の収支状況を見る比率であり、高いことが望ましい。

「事業活動収支差額比率」：事業活動収入に対する基本金組入前の当期収支差額の占める割合を示す。この比率が高いほど自己資金が充実するため、高いことが望ましい。

「純資産構成比率」：純資産の総資産に占める割合を示す。総資産の財源が自己資金なのか、他人資金なのかを見るため、高い値ほど良い。長期的な財務状況を確認するための指標。

## (5) 各部門毎の事業活動収支計算書の経年比較

## ①法人部門

単位：千円

区 分		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	0	0	0	0	0
		手数料	0	0	0	0	0
		寄付金	0	0	1,000	0	0
		経常費等補助金	0	0	0	0	0
		付随事業収入	0	0	0	0	0
		雑収入	28	88	6	7	4
		教育活動収入計	28	88	1,006	7	4
	支出の部	人件費	43,014	43,163	38,335	38,948	38,307
		教育研究経費	0	0	0	0	0
		管理経費	42,662	8,405	4,334	4,557	5,337
		徴収不能額等	0	0	0	0	0
教育活動支出計		85,676	51,568	42,670	43,506	43,644	
教育活動収支差額		▲ 85,648	▲ 51,480	▲ 41,663	▲ 43,499	▲ 43,640	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	1	0	▲ 162	▲ 162	0
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	1	0	▲ 162	▲ 162	0
	支出の部	借入金等利息	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0	0	0
教育活動外収支差額		1	0	▲ 162	▲ 162	0	
経常収支差額		▲ 85,647	▲ 51,480	▲ 41,826	▲ 43,662	▲ 43,640	
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	0	0	0	0	0
		特別収入計	0	0	0	0	0
	支出の部	資産処分差額	0	0	0	0	0
		その他の特別支出	0	0	0	0	0
		特別支出計	0	0	0	0	0
特別収支差額		0	0	0	0	0	
基本金組入前当年度収支差額		▲ 85,647	▲ 51,480	▲ 41,826	▲ 43,662	▲ 43,640	
基本金組入額合計		▲ 531	142	0	150	▲ 2	
当年度収支差額		▲ 86,179	▲ 51,338	▲ 41,826	▲ 43,512	▲ 43,642	
財務比率 (%)	人件費比率	—	—	—	—	—	
	教育研究経費比率	—	—	—	—	—	
	管理経費比率	—	—	—	—	—	
	学生生徒等納付金比率	—	—	—	—	—	
	事業活動収支差額比率	—	—	—	—	—	

## ②大学部門

単位：千円

区 分		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	1,111,546	1,225,592	1,271,027	1,235,036	1,257,852
		手数料	17,103	18,789	13,932	15,069	15,401
		寄付金	52,407	51,129	50,450	120	1,875
		経常費等補助金	110,098	135,306	149,333	172,453	159,011
		付随事業収入	10,157	0	968	6,059	9,311
		雑収入	22,275	28,489	6,612	11,532	29,589
		教育活動収入計	1,323,587	1,459,307	1,492,324	1,440,272	1,473,042
	支出の部	人件費	688,267	683,407	715,069	749,043	797,558
		教育研究経費	384,803	408,267	457,981	463,427	484,902
		管理経費	84,598	78,645	77,199	105,339	90,511
		徴収不能額等	10,783	16,410	6,387	6,632	8,077
		教育活動支出計	1,168,451	1,186,731	1,256,638	1,324,441	1,381,049
	教育活動収支差額		155,135	272,575	235,685	115,830	91,993
	教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	200	221	303	370
その他の教育活動外収入			0	0	0	0	0
教育活動外収入計			200	221	303	370	921
支出の部		借入金等利息	2,173	2,033	1,893	1,753	1,612
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	2,173	2,033	1,893	1,753	1,612
教育活動外収支差額		▲ 1,973	▲ 1,811	▲ 1,589	▲ 1,382	▲ 691	
経常収支差額		153,161	270,764	234,095	114,447	91,302	
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	4,928	4,027	1,734	4,193	859
		特別収入計	4,928	4,027	1,734	4,193	859
	支出の部	資産処分差額	1,061	66	594	3,509	4,486
		その他の特別支出	0	0	0	260	0
		特別支出計	1,061	66	594	3,769	4,486
特別収支差額		3,866	3,960	1,139	424	▲ 3,626	
基本金組入前当年度収支差額		157,028	274,724	235,235	114,871	87,675	
基本金組入額合計		▲ 58,465	▲ 105,949	▲ 132,012	▲ 46,726	▲ 62,059	
当年度収支差額		98,563	168,775	103,223	68,145	25,615	
財務比率(%)	人件費比率		52.0	46.8	47.9	52.0	54.1
	教育研究経費比率		29.1	28.0	30.7	32.2	32.9
	管理経費比率		6.4	5.4	5.2	7.3	6.1
	学生生徒等納付金比率		84.0	84.0	85.2	85.7	85.3
	事業活動収支差額比率		11.8	18.8	15.7	8.0	5.9

③中学校・高等学校部門

単位：千円

区 分		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	359,285	348,216	374,959	374,595	418,391
		手数料	7,382	7,560	8,080	8,859	8,945
		寄付金	5,666	17,194	12,481	10,414	10,002
		経常費等補助金	353,737	334,244	354,791	371,574	348,320
		付随事業収入	662	231	1,207	1,098	1,702
		雑収入	2,725	940	872	2,503	3,254
		教育活動収入計	729,459	708,385	752,392	769,046	790,616
	支出の部	人件費	620,327	549,666	554,373	580,539	564,186
		教育研究経費	180,444	172,462	182,515	192,305	197,517
		管理経費	32,971	42,674	30,891	31,585	32,904
		徴収不能額等	0	0	0	0	0
教育活動支出計		833,744	764,803	767,781	804,430	794,608	
教育活動収支差額		▲ 104,285	▲ 56,417	▲ 15,388	▲ 35,384	▲ 3,992	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	311	344	471	575	1,432
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	311	344	471	575	1,432
	支出の部	借入金等利息	2,865	2,563	2,262	1,960	1,658
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	2,865	2,563	2,262	1,960	1,658
教育活動外収支差額		▲ 2,554	▲ 2,219	▲ 1,790	▲ 1,385	▲ 226	
経常収支差額		▲ 106,839	▲ 58,637	▲ 17,179	▲ 36,769	▲ 4,218	
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	13,539	1,574	4,882	5,131	390
		特別収入計	13,539	1,574	4,882	5,131	390
	支出の部	資産処分差額	29,930	2,544	2,062	2,832	2,168
		その他の特別支出	0	0	0	0	0
		特別支出計	29,930	2,544	2,062	2,832	2,168
特別収支差額		▲ 16,391	▲ 969	2,819	2,299	▲ 1,777	
基本金組入前当年度収支差額		▲ 123,231	▲ 59,606	▲ 14,359	▲ 34,470	▲ 5,995	
基本金組入額合計		▲ 19,245	▲ 27,199	▲ 14,055	▲ 27,374	▲ 22,594	
当年度収支差額		▲ 142,476	▲ 86,806	▲ 28,414	▲ 61,845	▲ 28,590	
財務比率(%)	人件費比率	85.0	77.6	73.6	75.4	71.2	
	教育研究経費比率	24.7	24.3	24.2	25.0	24.9	
	管理経費比率	4.5	6.0	4.1	4.1	4.2	
	学生生徒等納付金比率	49.2	49.1	49.8	48.7	52.8	
	事業活動収支差額比率	▲ 16.6	▲ 8.4	▲ 1.9	▲ 4.4	▲ 0.8	

## ④小学校部門

単位：千円

区 分		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	195,846	202,126	207,048	202,572	204,780
		手数料	2,427	2,778	2,978	3,826	3,203
		寄付金	16,187	10,259	15,610	9,078	14,274
		経常費等補助金	102,878	104,890	103,003	105,146	106,780
		付随事業収入	0	0	0	0	0
		雑収入	389	119	1,238	427	236
		教育活動収入計	317,728	320,172	329,878	321,050	329,275
	支出の部	人件費	182,330	183,572	167,808	176,870	184,106
		教育研究経費	61,579	53,168	66,223	61,345	62,942
		管理経費	8,308	9,791	7,030	9,279	8,192
		徴収不能額等	0	0	0	0	0
教育活動支出計		252,219	246,531	241,063	247,494	255,241	
教育活動収支差額		65,509	73,640	88,815	73,555	74,033	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	62	69	94	115	286
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	62	69	94	115	286
	支出の部	借入金等利息	573	512	452	392	331
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	573	512	452	392	331
教育活動外収支差額		▲ 510	▲ 443	▲ 358	▲ 277	▲ 45	
経常収支差額		64,998	73,197	88,457	73,278	73,988	
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	4,117	741	926	3,135	205
		特別収入計	4,117	741	926	3,135	205
	支出の部	資産処分差額	6,033	75	267	2,302	626
		その他の特別支出	0	0	0	0	0
		特別支出計	6,033	75	267	2,302	626
特別収支差額		▲ 1,916	666	659	833	▲ 421	
基本金組入前当年度収支差額		63,082	73,863	89,116	74,112	73,567	
基本金組入額合計		▲ 289	▲ 7,115	▲ 3,494	▲ 2,851	569	
当年度収支差額		62,793	66,748	85,622	71,260	74,136	
財務比率(%)	人件費比率	57.4	57.3	50.9	55.1	55.9	
	教育研究経費比率	19.4	16.6	20.1	19.1	19.1	
	管理経費比率	2.6	3.1	2.1	2.9	2.5	
	学生生徒等納付金比率	61.6	63.1	62.7	63.1	62.1	
	事業活動収支差額比率	19.6	23.0	26.9	22.9	22.3	